

(10) 日本特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3073553号
(U3073553)

(45) 発行日 平成12年11月30日(2000.11.30)

(24) 登録日 平成12年9月13日(2000.9.13)

(51) Int.Cl.	登録番号	P I
G 0 9 F 9/00	3 1 2	G 0 9 F 9/00 3 1 2
G 0 3 B 21/10		G 0 3 B 21/10 Z
H 0 4 N 5/64	5 8 1	H 0 4 N 5/64 5 8 1 M 5 8 1 H

特許請求の範囲 未請求 図項の数 5 巻面 (全 6 頁)

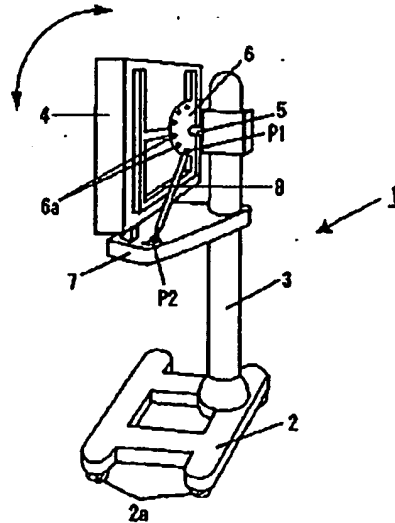
(21) 出願番号	特願2000-4562(U2000-4562)	(73) 実用新案権者	600310188 株式会社オガワ 広島県広島市安佐北区安佐町大字屯木535 番地の3
(22) 出願日	平成12年5月25日(2000.5.25)	(72) 考案者	岡田 昌明 広島県広島市佐伯区五日市駅前1丁目12-29
		(72) 考案者	林 俊幸 広島県広島市西区己斐上4丁目4-31

(54) 【考案の名称】 回転ディスプレイ筐体

(57) 【要約】

【課題】 一台の筐体でディスプレイの縦型・横型の使い方が、簡単にでき、なお且つ少しの力でそれが可能なディスプレイ筐体を提供する。

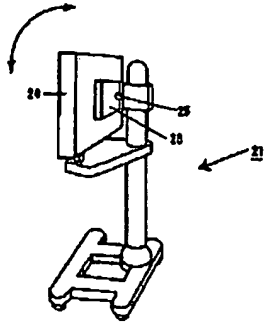
【解決手段】 本考案は、基台に突設した支柱に、ディスプレイケースを垂直方向及び水平方向に回転させ支持する回転軸を設けると共に、上記ディスプレイケースを垂直方向及び水平方向に移動させるための動力具を具備することにより、上記課題を解決したものである。



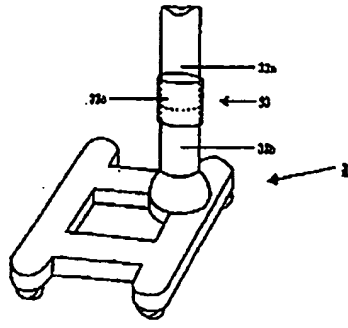
(3)

実登3073553

【図4】



【図5】



(4)

実登3073553

【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

この考案は、ディスプレイを垂直方向及び水平方向に回転して支持する回転ディスプレイ筐体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、ディスプレイを垂直方向あるいは水平方向に固定して使用する筐体があった。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

これは次のような欠点があった。

(イ) ディスプレイが固定されているため、縦型（垂直方向）は縦使い、横型（水平方向）は横使いの限定であった。

(ロ) 縦使いから横使い、横使いから縦使いに切り替えようとする、筐体からディスプレイを工具を使って取外し、設定変更をする必要があり、大変労力が必要で、設置作業も危険であった。

本考案は、これらの欠点を除くためになされたものである。

【0004】

【課題を解決する為の手段】

本考案は、基台に突設した支柱に、ディスプレイケースを垂直方向及び水平方向に回転させ支持する回転軸を設けると共に、上記ディスプレイケースを垂直方向及び水平方向に移動させるための動力具を具備することにより、上記課題を解決したものである。

【0005】

【考案の実施の形態】

以下、考案の実施例について説明する。

この回転ディスプレイ筐体1は、底面にキャスター2a（この実施例の場合4箇所）を設けた基台2に支柱3を突設し、この支柱3にディスプレイケース4を垂

BEST AVAILABLE COPY

(5)

実登3073553

直方向及び水平方向に回転させ、支持する回転軸5を設けると共に、回転軸5に半円状の回転板6を設け、支柱3にディスプレイケース4を水平方向に支持するテーブル7を設け、回転板6とテーブル7間にガスダンパーによる動力具8を設けてなる。

なお、半円状の回転板6には複数の透孔による取付部6aを設けており、ガスダンパーによる動力具8の上部を半円状の回転板6の取付孔6aにピン止めp1し、下部をテーブル7の上面に同じくピン止めp2してなる。

また、ディスプレイケース4内に入れるディスプレイの重さにより、取付部6aを変更すればよい。

【0006】

上記回転ディスプレイ筐体1を使用する場合、所要場所に回転ディスプレイ筐体1を移動させる（キャスター2aにて移動簡単）。その後、水平方向に位置してなるディスプレイケース4を垂直方向に移動（立設）させるために、まずディスプレイケース4の先端下部を手Tで持ち上げることによりガスダンパーによる動力具8（水平方向にディスプレイケース4が位置している時は圧縮された状態になっている。）の反発力により少ない力で垂直方向に移動でき、90°回転した時点でガスダンパーによる動力具8が一瞬に伸ばされた状態で固定される。

つまり、ガスダンパーによる動力具8は持ち上げ（押し上げ）る時の補助と固定の二役を果たしている。

また、ディスプレイケース4を垂直方向から水平方向に移動（横設）される場合は、ディスプレイケース4の上部を手T1で押し下げることによりガスダンパーによる動力具8が縮み始め、90°回転した所で最小縮小になり固定される。つまり、移動（横設）時の急激な落下荷重を受け止める補助力と固定との二役を果たしている。

【0007】

次に他の実用例を説明する。

回転ディスプレイ筐体21は、回転軸25に減速器付の電動モーターによる動力具28を設けてなるもので、垂直方向及び水平方向にディスプレイケース24を回転させ支持するものである。

BEST AVAILABLE COPY

【0008】

回転ディスプレイ筐体31は、支柱33を上下分割して上支柱33aと下支柱33bとし、下支柱33bの上部に円筒状のカラーによる回動部33cを固着し、その上方から上支柱33aを挿入してなる形態で、必要に応じて固定ボルト（図示せず）を設けてもよい。

【0009】

この回転ディスプレイ筐体31は、上支柱33aを回転させることができ、ディスプレイケースを所要の方向に位置させることができるものである。

【0010】

なお、上記実施例においてディスプレイケースの大きさ、形は自由に設定すればよく、中に入れるディスプレイも電光タイプやプラズマタイプ等、必要に応じて決めればよい。

また、動力具もガスダンパーや電動モーター以外も考えられる。

さらに、回動部の形態もカラーに限定しない。

【0011】

【考案の効果】

- 1) 本考案は、1台の筐体でディスプレイを垂直方向（縦型）にも水平方向（横型）にもでき、ディスプレイとして応用範囲が広がる。
- 2) 動力具を設けることにより、ディスプレイケースの移動が簡単・容易に行える。
- 3) 特にガスダンパーを使用し、取付部を設け回転板を使用することにより、ディスプレイの重さ等に合わせて取付位置を変更でき、移動の力加減を調整できる。
- 4) 回動部を設けることによりディスプレイ面の方向を自由に設定できる。